

# 2024 ANNUAL REPORT



— Aoyama Gakuin University —  
Schoonmaker Memorial Center for Gender Studies

# ジェンダー研究センター 2024年度年次報告

## ごあいさつ

2025年4月、ジェンダー研究センターは開設5年目を迎えることができました。日頃よりセンターの活動に関心を寄せ、支えてくださっている皆さまに心より感謝申し上げます。

昨年度も例年に引き続き多様な取り組みを展開するとともに、夏には新たな場所へと移転し、より充実した環境を整えることができました。

2024年度の年次記録として、活動・事業の報告を掲載いたします。また、当該年度中の特記事項も併せてご紹介いたします。

今後とも、ジェンダー研究センターの活動へのご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。



2025年9月

青山学院大学  
スクーンメーカー記念ジェンダー研究センター  
センター長 西本あづさ

## 目次

当センターについて .....	3
活動記録 .....	5
活動報告	
• 研究事業 .....	6
• 教育事業 .....	10
• 社会貢献事業 .....	14
• その他の事業 .....	24
特記事項 .....	29

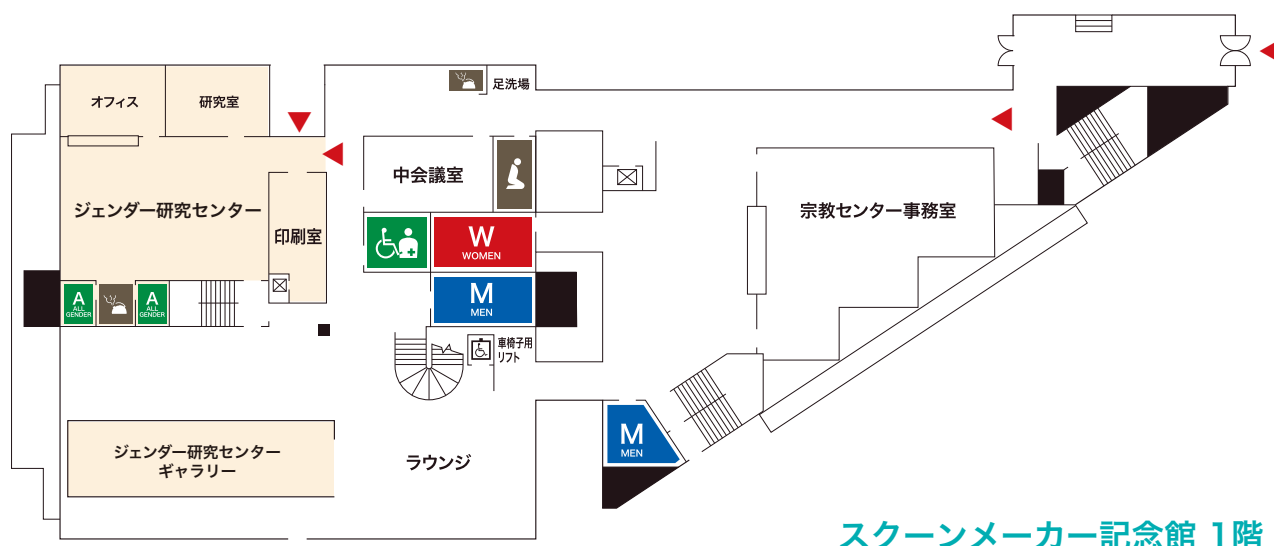


Aoyama Gakuin University  
Schoonmaker Memorial Center for Gender Studies

センターの名称は、青山学院の源流であり最初に開校された女子小学校を創設した、米国メソジスト監督教会婦人宣教師のドーラ・E・スクーンメーカーに由来します。青山学院の創立記念日はスクーンメーカーがこの女子小学校を始めた日であり、青山学院の歴史は女子教育から始まったといえます。その後、名称の変更、移転などを経て、女子教育の蓄積と成果は青山学院女子短期大学にひきつがれましたが、女子短期大学の閉学後、青山学院の女子教育の歴史を検証し、新しい時代に継承するため、短大ジェンダー研究所が設立され、2021年度、大学附置のジェンダー研究センターに移管されました。

開室時間：月～金 10:00-18:00 土・日・祝日（授業日を除く）および休業期間は閉室

場所：青山キャンパス スクーンメーカー記念館（旧女子短期大学図書館）1階



スクーンメーカー記念館 1階

### センターのロゴマークについて

2023年度、本学生を対象にセンターの公式ロゴマークを公募して、国際政治経済学部4年（当時）の吉江美翔さんの作品に決まりました。5人の人間をイメージする『SMCGS』の文字を、色や形、サイズを変えることによって、異なった価値観や容姿、文化のもとで生きてきたことを表しており、「誰かに合わせようとしなくてもいい」というメッセージが込められています。

## センターの目的

---

センターは、青山学院大学が、青山学院女子短期大学において行われていたジェンダー研究を受け継ぎ、青山学院における女子教育の伝統を新しい時代に継承するとともに、キリスト教精神に基づいた、本学におけるジェンダー研究の遂行及びジェンダー教育の発展を通じて、青山学院及び社会におけるジェンダー平等及び性の多様性の尊重に貢献することを目的とします。

## ジェンダー研究センターの活動

---

研究・教育・社会貢献の三つの事業を柱として活動し、ウェブサイトやギャラリーでの情報発信を行っています。

## メンバー

---

ジェンダー研究センターにはセンター長、副センター長、運営委員会、実務委員会が置かれており、センターの運営を行っています。正副センター長と委員は大学の専任教員と職員が務めており、センターには 2024 年度当時は 1 名の専任助手が常駐していました（2025 年度 4 月より、専任助手は 2 名となりました）。



# ジェンダー研究センター 2024 年度活動記録

<2024 年>

- 4月1日 入学式にて性的同意ハンドブックを全新生に配布
- 4月11日～(月2回・定期開催) 「コミュニティスペース」開始
- 4月20日・21日 東京レインボープライド 2024 にて渋谷男女平等・ダイバーシティセンター〈アイリス〉・聖心女子大学グローバル共生研究所・津田塾大学・実践女子大学との協働でブース出展
- 4月20日～5月11日 展示「共創の場：ジェンダー問題とアジアのアート・コレクティブ」関連イベント  
開会式 & ガイドツアー／対談企画「フェミニズムを实践する：VaChina×エトセトラブックス」／木版画ワークショップ by イースト・アジア・エコトピア／上映会「MIMOZA WAYS ミモザウェイズ-わたしたちの道」／CASS 縫いものワークショップ by Itazura NUMAN／上映会「KITA」／対談企画「リブ新宿センター資料保存会×チェルシー・シーダー（青山学院大学教授）」
- 5月11日～7月13日(全5回) エンパワーメントプログラム ジェンダーと表現 [造形表現・織ワークショップ] (前期)
- 6月1日・7月20日 ジェンダーと表現 [造形表現・版画ワークショップ] (前期)
- 6月11日 白波瀬佐和子氏による特別講義「Gender Gap in Work and Family - 職場および家庭におけるジェンダーギャップ」(協力)
- 6月12日 ワークショップ「褒め言葉が実は差別？マイクロアグレッションについて学ぼう」
- 6月22日 <アイリス>出張開催 読書会「にじいろ読書カフェ」
- 6月28日 上映会・講演会「Icy Lake——1996～2015年ニューヨークのゲイ・コミュニティにおける映画制作とエレクトロニック・ダンス・ミュージックをめぐって」
- 7月6日 インプロワークショップ『ザ・ベクデルテスト』
- 7月17日 学生企画「もやもやカフェ@青山キャンパス」
- 9月～2025年1月 青山スタンダード科目「いのち・女性・社会」企画及び実施
- 9月21日～12月7日(全4回) ジェンダーと表現 [造形表現・織ワークショップ] (後期)
- 10月5日～12月21日(全8回) エンパワーメントプログラム「女性のためのマナーリテラシー講座～3級FP技能士を目指そう～」
- 10月12日 ジェンダーと表現 [造形表現・版画ワークショップ] (後期) 青山アカデメイアにて開講
- 10月26日 講演会「印刷技術から見る書物・絵本のイラストレーション」
- 11月9日・16日 ジェンダーと表現 [造形表現・織ワークショップ] (後期) 青山アカデメイアにて開講
- 11月9日～12月14日(全5回) 青山学院大学 青山キャンパス 公開講座「ジェンダーと表現」開講
- 11月27日 「性的同意ワークショップ - より安全で充実したキャンパスライフのために -」
- 11月30日 ワークショップ「パレスチナ刺繍でバッジを作る」
- 12月19日 学生企画「もやもやカフェ@相模原キャンパス」
- <2025 年>
- 1月28日 プチ学会：日本ジェンダー史  
JAPAN GENDER HISTORY MINICONFERENCE (共催)
- 3月15日 ジェンダー研究センター年報 第4号 発行

「青山学院における女子教育の検証 ―オーラルヒストリー・プロジェクトII―」

プロジェクトリーダー：小林 瑞乃

研究期間：2023年4月1日～2025年3月31日

研究目的：青山学院女子短期大学の来歴とそこに学んだ学生達の学びの総体について、個々人の経験や思い出の中に探求し、学院における女子教育の歴史的意義を未来に向けた資産として継承・発展していくことを目指す。

メンバー：小林 瑞乃	コミュニティ人間科学部准教授
河見 誠	コミュニティ人間科学部教授
後藤 千織	コミュニティ人間科学部准教授
菅野 幸恵	コミュニティ人間科学部教授
趙 慶姫	コミュニティ人間科学部教授
西山 利佳	コミュニティ人間科学部准教授
山田 美穂子	コミュニティ人間科学部教授
吉岡 康子	コミュニティ人間科学部准教授
輪島 達郎	コミュニティ人間科学部准教授

研究報告（2024年度）：

本研究プロジェクトは、短大同窓会7支部の全面的な協力のもと、メンバーで分担して2人一組になってインタビューを行う聞き取り調査である。

第1期の調査に引き続き第2期では1960～70年代の卒業生を中心に個別インタビューを行い、当初の研究目的に沿って進展することができた。聞き取り調査にあたっては事前に質問事項（進学の理由、入学後の変化、授業や礼拝、学校生活、寮、キリスト教教育などに関して記憶に残っていること、卒業後の進路選択、現在の生涯教育やボランティアに関する活動について、自身にとっての「青短」の意義など）を示し、それについての応答を聞きながらさらに質疑を加えていくことで、相互に理解を深めることができた。調査項目とそこから派生した語りについて臨機応変なインタビューを行った結果、地域的な差や入学年度による違い、時代状況など、様々な相違や共通点と共に、それぞれの個性的な違いが加わって、想像した以上に多様で貴重な経験・認識の総体としての「青短」論を収集することができた。

以上のような聞き取り調査によって活字資料だけでは知る事のできなかつた新たな知見を得ることができた。第3期の継続を視野におこなってる本研究に関しては、数年間のインタビューの成果を蓄積することの意義も大きい。女子教育とキリスト教を軸とした独自の教育が学生にとって果たした役割と課題をはじめ、女性のライフヒストリーの具体的な事例、ライフキャリアの実態把握、特質、社会的位置づけなどを含め、短大における女子教育の諸相を把握し、学生にとっての「青短」、学びの場としての「青短」の意義を検証し、日本社会に果たした歴史的教育的資産を明示できるような成果を得たという手ごたえを感じている。

また、本研究プロジェクトでは、構成員相互の有機的な連携を保ち、連絡を密に取り合って情報交換を行いながら調査を進めるなど常に関係を深めてきた。担当地域のインタビューについて各自で報告書を作成し、その成果に関する聞き取り調査の報告会を行って、調査結果に関する分析・検証など、全員で活発な研究活動を展開していくことができた。

## 「フェミニスト神学を通して考える思想と実践の総合的研究」

プロジェクトリーダー：福嶋 裕子

研究期間：2023年4月1日～2025年3月31日

研究目的：贖罪信仰によってではなく、互いの関係性において神の愛を受け取るという経験によって引き起こされたさまざまな社会変革の軌跡を分析し、いのちと人間性を肯定するフェミニスト神学への理解を深めることを目指す。

メンバー：福嶋 裕子	理工学部 教授
大森 秀子	教育人間科学部 教授
後藤 千織	コミュニティ人間科学部 准教授
堀 真理子	経済学部 教授

### 研究報告（2024年度）：

今年度は、研究の最終年度として『灰の箴言：暴力、贖罪における苦しみ、救済の探究』（Rita Nakashima Brock、Rebecca Ann Parker 著、Beacon Press、2002）を3月に翻訳、出版（松籟社、2025）するために9月からは校正作業に取り組んだ。

出版作業とは別に、メンバーによる研究会を4回、開いた。第一回では、近年のパウロ神学の動向の変化と、その結果から生じる疑問点を整理し、一世紀のキリスト教の歴史の中では、萌芽があったとしても贖罪信仰はまだ成立していなかった可能性について学んだ（5月27日、発表者 福嶋裕子）。第二回では、南北戦争前の禁酒運動とそれに関連する離婚法改正の議論に見られるジェンダーの言説が考察された。アメリカの禁酒運動の手法が道徳的説論から法的規制（州禁酒法制定）にシフトするにつれて、女性たちが婚姻制度や道徳的説論に埋め込まれた「真の女性らしさ」を批判的に理解する視点を手にしていった様子と「飲んだくれ」の更生を支える活動がどのように変化していったかが詳細に分析された。キリスト教文化の中で、妻である女性に求められた自己犠牲の道徳を批判すべきことは明瞭だが、ホワイトフェミニズムの限界にも目を向ける必要がある。（9月12日、発表者 後藤千織）。第三回では、19世紀末から20世紀初頭におけるアナ・ハワード・ショーの神学思想に着目し、日本の婦人参政権運動に参加したガントレット恒に与えた影響について考察がなされた。最終的には、日本のキリスト者女性による平和への取り組みを探る目的がある。特に、ショーはキリストを両性具有的で「神聖な教師」と見なし、ジェンダー化された道徳や罪の概念に乏しく、ヒューマニティーを強調している。ショーの思想の源流やボストン大学アナ・ハワード・ショーセンターを探ると、さらに興味深いのかもしれない（11月11日、発表者 大森秀子）。第四回では、終わりなき終わりの時代とエコフェミニスト神学と題して、ベケットの終末的作品をエコフェミニズムの観点から評価できることを学んだ。終末がすでに来てしまったような破局の時代に、宇宙的な救済の希望をどこに見出すことができるのかが議論された（2025年2月17日、発表者 堀真理子）。

二年間の研究期間内に、『灰の箴言』の出版を実現させることができ、一つの目に見える成果をあげることができた（3月15日）。また、たまたまではあるが、著者の講演会をジェンダー研究センター主催で四月に開催できることは望外の喜びである。今後もさらに引き続き、2025年度のジェンダー研究センターの年報第5号に各メンバーによる論説の掲載を目指して、自己犠牲の精神によらないキリスト教信仰の在り方、贖罪ではなく人間信頼（あるいは天地創造における神への信頼）に基づく共同体形成について考察を進めたい。



**「戦後沖縄に生きる女性たちのまなざし—ジェンダー、エスニシティ、アイデンティティ」**

プロジェクトリーダー：安齋 聡子

研究期間：2024年4月1日～2026年3月31日

研究目的：戦後沖縄における女性研究には、膨大な語りの収集と厚い研究の蓄積がある。本研究では、この歩みに復帰 50 年余、戦後 80 年を迎える現在の女性たちの語りを重ねること、語りに現れる女性たちと沖縄、日本社会との呼応を、ジェンダー、エスニシティ、アイデンティティの観点から捉えることを目指す。

メンバー：安齋 聡子      コミュニティ人間科学部 教授  
輪島 達郎      コミュニティ人間科学部 准教授  
宮城 晴美      元琉球大学グローバル教育支援機構非常勤講師

**研究報告（2024 年度）：**

2024 年度は研究協力者に対するインタビューの実施とトランスクリプトの作成を中心に実施した。

沖縄女性を巡る視線の一つに、沖縄出身者への差別意識が存在してきた。本研究協力者においては、沖縄本島、「内地」への越境体験のなかで、沖縄出身者・島嶼部出身者への差別に関する体験が、概ね世代を遡るにつれて多くなる傾向が見られる。例えば、「本土」への越境を経験した 70 代女性とその周囲の沖縄出身者たちと異なり、20 代後半女性とその周囲の沖縄出身者たちは進学先の県外で、それを実際に体験することも見聞きすることもなく、むしろ好意的な受け止めに体験しながら過ごしてきた。それはともすれば、「越境」という表現がもはや似つかわしくないほどに均質化した社会を表している可能性がある。その一方で、データからは、若年層において、沖縄内での区分の意識が存在していることも示された。「マウントを取られる」と研究協力者（島嶼部出身者）が表現した本島出身者との区分は、若年層により意識されている様子が得られている。社会的運動（学生運動、本土復帰運動）などの時期においては、越境先において沖縄出身者としてのまとまりが得られる傾向にあり、時代の動きに大きく影響される可能性がある。

また、20 代の研究協力者からは、経済的格差・意識の格差が存在するなかで、早期に人生を決めてしまうマジョリティに対し、可能性に向けて「頑張る」少数派の自分に向けられてきた、内部の視線に対する違和感と生きづらさが語られている。他と歩調を合わせることを求める同調圧力の強さが、違和感と生きづらさを女性たちに与えていることも考えられる。これらは 60 代、70 代の研究協力者のデータには見られない点である。女性の進学後の職業イメージが看護師、保育士、教員にほぼ固定化されていた時代と、そうでない時代との相違に関わらず、集団に共有されている「女性イメージ」を超えて女性たちが活躍することへの、内なる批判的なまなざしが持続している可能性がある。

しかしながら、一定の努力ののちに県外で進学・就職をした沖縄出身者たちも、「20代後半にいったんやってくる」と研究協力者が述べる「沖縄への回帰」を果たしていく。「高校に進学し、可能であれば「本土」の大学を出て、一度は都会で仕事をする」という体験のフローが、ある種の型として進学校における一部の生徒たちに認識されていること、しかしそれを達成したのちに「この先人生を送るなら沖縄で」という意識が存在する。この沖縄回帰を支えているのは、家族・親族間の関係性の強さである。沖縄回帰により、女性たちは自らを結果的に従来の「女性イメージ」に回収させていると捉えることもできる。

データを収集している段階であり、十分な考察は難しいが、外からのまなざしに比して、内なるまなざしの強さが印象づけられている。これらは、2025 年度に継続するデータ収集、分析を踏まえ、検討を尽くしていきたい。

上映会・講演会「Icy Lake——1996～2015年ニューヨークのゲイ・コミュニティにおける映画制作とエレクトロニック・ダンス・ミュージックをめぐって」

6月28日に、アメリカ出身の映像作家でありパブリック・アーティストである Wills Glasspiegel 氏を講師にお迎えし、同氏が製作した短編ドキュメンタリー映画 "Icy Lake" (2014) の上映会と映画の背景をめぐり講演会「Icy Lake——1996～2015年ニューヨークのゲイ・コミュニティにおける映画制作とエレクトロニック・ダンス・ミュージックをめぐって」を開催しました。

Glasspiegel 氏は、公園、アートギャラリー、美術館などさまざまな環境で作品を発表するとともに、在野の研究者、コミュニティ・オーガナイザーとしても多彩な活動を展開してきた方です。彼の映画作品である "Icy Lake" は、一般にはほとんど知られることがないまま密かに生き続け、2013年に YouTube で再発見された "Icy Lake" という楽曲の歴史をニューヨークのダンスフロアにおけるそのクィアな起源まで遡り、音楽ジャーナリズムに影響を与えた軌跡を描いています。同作品では、Kevin Aviance、DJ MikeQ、Kevin JZ Prodigy といった現代のボールルームハウス／ヴォーグカルチャーに多大な影響力を持つパフォーマーたちのインタビューを取っています。

映画上映及び講演は英語での開催となりましたが、当日はたくさんの方にお越しいただきました。また、講演会の終わりに、Glasspiegel 氏が 2023 年に共同制作し、オヘア国際空港に常設展示されている大規模インスタレーション・フィルム "Skywalkers" を急遽上映いただきました。映像内では地元シカゴのアフリカ系のダンスであるフットワークと先住民のグラスダンスが並べて描かれています。サプライズの上映に、参加者も思わず歓喜しました。

イベント後のアンケートでは「リアルなゲイカルチャーの一端を、音楽を通じて知ることができた」、「作品と語り共に登場する人々へのリスペクトが感じられた」などの感想をいただきました。また、日本の文脈におけるクィア・アーティストについてのイベントも是非行ってほしいとの意見も寄せられました。今後、企画を検討していきたいです。



## 授業科目の提供・ジェンダー関連科目紹介

「いのち・女性・社会」開講 青山スタンダード科目（テーマ別科目／社会理解関連科目）

センターの目的達成のための事業の一つとして「ジェンダー平等及び性の多様性に関する教育活動の企画及び運営」を掲げ、本科目の開設を企画しました。

ジェンダー平等を目指すためには、若い世代が、まず「女性」が歴史的、社会的にどのような位置に置かれてきたのかという事実を学ぶ必要があります。その場合、ジェンダー平等を机上ではなく実社会の中で実現していくために、自分と遠い知識や情報として受け取ることに終始することなく、血の通った実践知にしていくことが求められます。本科目はオムニバス形式により、不平等な状況、過酷な状況の中で、女性たちが重ねて来た活動について、当事者であるゲスト講師からお話を伺います。講師、受講生双方が表情や声を感じあいながら質問や議論を行い、学生同士が参加しながら学んでいく授業です。

開講キャンパス：青山キャンパスと相模原キャンパスの隔年開講（2025年度より／2025年度は相模原開講）

開講学期：後期

担当者：西山 利佳（青山学院大学コミュニティ人間科学部准教授）

内容：

- トルコの女性の生活文化を通して、イスラムの多様性を知る。
- 里親支援の現場からいのちを考える。
- 新聞記者として出会った人々の実践の紹介を通して、女性や子ども・若者が直面している困難と課題解決に向けた取り組みを学ぶ。
- ストリートチルドレンの現状と支援及びメキシコのフェミサイドの実態を知る。
- カンボジア内戦のサバイバーの半生に会う。
- 放射線被曝から子どもを守る市民の活動を知る。
- 杉並の女性たちが立ち上げた原水爆禁止運動を学ぶ。
- 丸木位里・丸木俊「原爆の凶」を中心に、社会問題と芸術の関係を考える。
- 沖縄の基地問題の歴史と現状を学ぶ。
- 戦時性暴力について、問題の所在を知り課題解決に必要なことを考える。
- 福島と広島をつなぐ活動に携わる作家のライフヒストリーを通して、いのち・女性・社会を考える。

### ジェンダー関連科目紹介

ジェンダーやセクシュアリティに関心がある学生の学びを深めるため、その見取り図となるよう、青山学院大学で開講されている科目からシラバスのキーワード検索で抽出し、「ジェンダー関連科目」としてリスト化しています。A科目（ジェンダーを学びの柱とする科目）、B科目（ジェンダーを学びの一部としている、あるいはジェンダーについて一回以上取り上げる科目）に分けてリストアップし、学生ポータルに掲載しています。

またその中からA科目の一部について、担当者のメッセージやプロフィールとともに紹介するパネル展示を企画し、毎年、前期・後期の履修登録期間に開催しています。パネルはPDFにして、センターのウェブサイトに掲載していますので、ご覧ください。



ジェンダー関連科目紹介



「褒め言葉が実は差別？ マイクロアグレッションについて学ぼう」開催

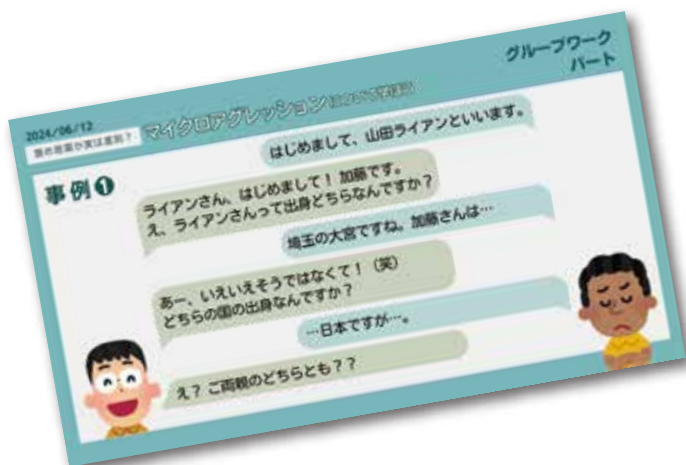
「マイクロアグレッション」とは、明らかな差別に見えなくとも、先入観や偏見を基に相手を傷つける行為のことを指します。例えば、会議で「やっぱり女性ならではの感性が必要ですよ」と発言する、「外国人風」の見た目の人に対して「日本語上手ですね」とほめる…などがあたります。大学に入学すると、様々なバックグラウンドを持った人との交流が増えます。多様性を尊重できる交流方法を学内で広めるために、センターは6月12日にワークショップ「褒め言葉が実は差別？ マイクロアグレッションについて学ぼう」を開催しました。当日は青山キャンパスで対面開催し、相模原キャンパスにも中継をつなぎました。

講師には、在日コリアンカウンセリング&コミュニティセンター（ZAC）センター長の丸一俊介さんをお招きしました。丸一さんは書籍『日常生活に埋め込まれたマイクロアグレッション 人種、ジェンダー、性的指向：マイノリティに向けられる無意識の差別』の翻訳に携わるなど、日々、精力的にマイクロアグレッションの問題に取り組んでいる方です。

ワークショップでは、はじめに丸一さんからマイクロアグレッションに関するレクチャーをしていただきました。オリジナル動画を通して、マイクロアグレッションの特徴、影響などを説明いただきます。また、マイクロアグレッションと一般的な「からかい」の違いなどに加えて、マイクロアグレッションを目撃した時の介入方法やマイクロアグレッションを受けた人の支え方など、第三者としてできることも教えていただきました。さらに、講師自身の加害者としてのマイクロアグレッションの経験を共有していただくことで、参加者が自身の行動について顧みる機会をいただきました。

後半では、参加者同士で事例をもとにグループワークを行いました。ミックスルーツの人、女性、性的マイノリティ、ムスリム、障害のある人などに対する多岐にわたるマイクロアグレッションの事例について、その問題点や介入方法をグループごとに議論しました。その後、挙げた意見を全体共有し、いくつかの事例については当事者によるコメントも加えて、さらに皆で考えを深めました。

事後アンケートでは、「これからの自分の言動に注意したいと思った」、「当事者の方の話を聞くことができ良かった」などの感想をいただきました。本ワークショップは、センターとして2度目の開催となります。2025年度以降も定期開催を目指して、学内における啓発をさらに広めていきたいです。





性的同意ワークショップ —より安全で充実したキャンパスライフのために

11月27日、センターが設立して以降3度目となる性的同意ワークショップを開催しました。昨年度に引き続き、学内はもちろん、他大学からもたくさんの学生が参加してくれました。

「密室で2人きり＝セックスOKの合図」、「下ネタにノらないやつは空気読めてない」、「酔っぱらったら“お持ち帰り”されても仕方ない」、「セックスについて真剣に話し合ったりするのはおかしい」…。どれも間違った考え方なのですが、残念ながら社会ではこういった言説が広く浸透してしまっており、そのせいで意図せず誰かを傷つけてしまったり、傷つけられてしまったりする学生が後を絶ちません。性的同意ワークショップでは、なぜこういった考え方が適切ではないのか、そしてなぜこういった考え方によって人が傷ついてしまうことがあるのかについて、「性的同意」という概念を中心に説明します。

ワークショップ当日、まずはアイスブレイクとして「2人でピザを注文しよう」というグループワークをします。ワークでは、隣の人と2人組になり、これから一緒に食べるピザの内容（サイズ、生地の種類、ソース、トッピングなど）を考えてもらいます。一見、性的同意とは無関係のワークに思えますが、実はピザの内容を決める工程では、私たちは「お腹は空いている?」、「辛いものは平気?」、「私はこのトッピングが好きだけど、あなたはどうか?」など、自然と相手の好みを確認したり、自分の好みについて相手の同意を確認したりします。このプロセスには、性的同意が重要な理由であったり性的同意を適切に確認する方法のヒントがたくさん隠されています。ワークを通して、参加者たちは「自分たちが普段は如何に相手の同意を自然と大切にし、実際に確認しているか」に気が付くことができます。

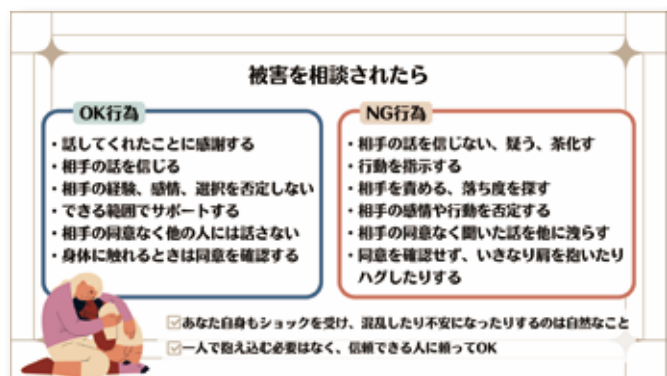
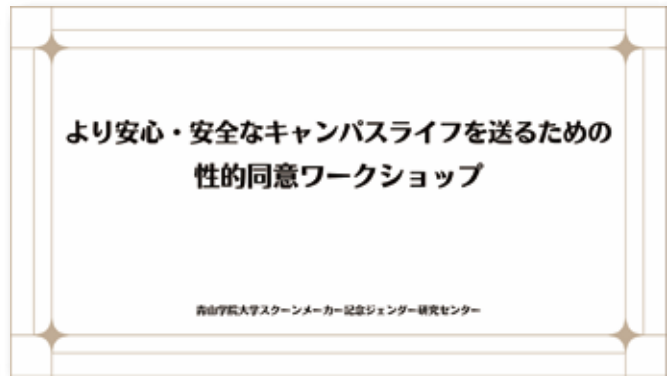
アイスブレイクが終わると、次はバウンダリー（自分がされて良いことと嫌なことの間にある、目には見えない境界線）の説明をし、その後は性的同意について学んでいきます。性的同意とは、すべての性的な行為において確認されるべき同意のことです。なぜ性的同意が大切なのか、バウンダリーの観点から参加者みんなで考え、性的同意を確認する際に重要なポイントを確認します。



また、性的同意の確認をおろそかにした場合、何が起きるのかについてもしっかり学びます。性暴力というと、性器の挿入を伴ういわゆるレイプを想像する人も多いと思いますが、実は同意の無い性的言動はすべて性暴力となってしまいます。性暴力被害にあったらどうなってしまおうか、そして加害をしてしまったらどうなってしまおうか…。実際の性暴力被害者の声も紹介しながら真剣に語ると、参加者も真摯に耳を傾けます。

最後に、「第三者介入」について学びます。第三者介入とは、性加害やハラスメントが起きそう、あるいは既に起きている場面に遭遇したときに、被害を食い止めるために第三者として積極的に介入することを指します。コミュニティにおける性暴力被害を撲滅するためには、被害者にならないように自衛を求めるのではなく、加害者となる人が出ないように教育をすることに加えて、誰もが第三者介入をできるようになるようトレーニングを実施することが非常に有効であると言われています。第三者介入の効果や具体的な方法について学んだあと、グループで事例に基づいて第三者介入の方法を考えます。多くのグループが活発に意見を交換し合い、さまざまな事例に対して多様な介入方法のアイデアを出してくれました。

より安心・安全なキャンパスの実現を目指して、これからも性的同意ワークショップ実施を計画していきます。



# エンパワーメントプログラム

ジェンダー研究センターではジェンダー平等、男女共生社会の実現に向けて、大学の教育、研究の成果を生かした生涯教育の取り組みを社会貢献事業の一つとして推進します。

## 公開講座

ジェンダー研究センターでは、青山学院大学 青山キャンパス公開講座において、2022 年度から連続して講座を開講しています。2 年間、「ジェンダーと学問研究」というテーマで、多様な学問分野からジェンダーについて語るという内容でしたが、2024 年度は切り口を変えて、テーマを「ジェンダーと表現」としました。文学、美術、音楽を専門とする 5 名の講師による講座に、対面 69 名、オンライン 29 名、計 98 名が参加されました。

アンケートでは、3 年続けて参加されている方から「バラエティに富んだ内容なので、ぜひ来年も続けてください」というメッセージをいただきました。また 20 年以上、公開講座を受講されている方による「意見交換などができると更によいと思う」というご指摘や、「来年度は、ジェンダーの本質や歴史を学習する講座を希望します」というご意見もありました。今後、講座を継続していく上で、参考にしたいと思います。

開講日	タイトル	講師
11月9日(土)	絵本・児童文学の中のジェンダー	西山 利佳 コミュニティ人間科学部准教授
11月16日(土)	美術を見ること、つくることとジェンダー	眞下 弥生 青山学院大学非常勤講師
11月30日(土)	版画と女性	伊藤 已令 日本大学非常勤講師
12月7日(土)	日本における初期讃美歌集と女性	山本 美紀 教育人間科学部教授
12月14日(土)	文学における戦争とジェンダー	メアリー・ナイトン 文学部教授





## 「女性のためのマネーリテラシー講座」開催報告

センターの社会貢献事業、エンパワーメントプログラムとして「女性のためのマネーリテラシー講座 ～3級FP技能士を目指そう～」を開催しました。

個人が生きていく上でお金の問題は切り離せず、一般教養としてマネーリテラシーは必要です。特に女性は男性と比較し長寿であり、平均寿命がますます延びている今日では、女性がマネーリテラシーを持つ必要性が高まっています。そこで、この講座は、特に女性のマネーリテラシーを高めることを目的とし、青山学院大学または青山学院女子短期大学を卒業した校友と教職員の女性を対象として開講しました。

4年目の2024年度も定員いっぱいの受講者が参加され、青山学院校友会 青山金融会を中心とする、ファイナンシャルプランナーとして活躍されている講師陣が講座を担当しました。プレ講座および本講座全8回の内容は以下のとおりです。

### プレ講座 「女性のライフプランとマネーリテラシーの必要性について」(動画配信)

講師：宇田 美江 (本講座企画・青山学院大学コミュニティ人間科学部准教授)

### 本講座 9:20～12:30 (10分間の休憩をはさみ、90分授業2コマ)

- |     |          |           |                      |
|-----|----------|-----------|----------------------|
| 第1回 | ライフプラン   | 10月5日(土)  | (講師：井上 貴洋)           |
| 第2回 | リスク管理    | 10月19日(土) | (講師：喜多 元子)           |
| 第3回 | 金融資産     | 10月26日(土) | (講師：高島 健)            |
| 第4回 | 不動産      | 11月9日(土)  | (講師：松浦 建二)           |
| 第5回 | 相続・事業継承  | 11月16日(土) | (講師：福山 浩平)           |
| 第6回 | タックス・プラン | 11月30日(土) | (講師：糸田 孝一)           |
| 第7回 | FP3級に向けて | 学科の過去問対策  | 12月14日(土) (講師：井上 貴洋) |
| 第8回 | FP3級に向けて | 実技の過去問対策  | 12月21日(土) (講師：井上 貴洋) |

講座の事後アンケートでは「印象に残った内容」として、「税金など、自分にも関わる制度の話を知りやすく教えていただいた」「お金に関して少ししか理解してなかった部分を説明してもらえたので理解を深めることができた」「実例を出してお話してくれて、どの講師の方もわかりやすい講義だった」といった感想が述べられました。

受講動機は「FPの資格を生活に役立てたい」という方が多く、中には職場で役立てたいという方もいらっしゃいました。また、「久々の母校でいくつになっても新しいことを学ぶことを続けていきたいと思った」「ある程度社会経験を積んだ上での受講が最適であったと思う」といった感想もいただき、生涯学習の意義をあらためて認識させられました。

センター主催の本講座は2024年度をもって終了しましたが、2025年度は「青山アカデメイア」で「社会人のためのFP3級技能士対策講座」が開講されます。

# エンパワーメントプログラム [ジェンダーと表現]

ジェンダー研究センターでは、人間の自己意識の基本である表現行為を通して、自分自身を見つめ直し、ジェンダーの問題、その社会背景を考えるアプローチとなることを目指して、[ジェンダーと表現] というテーマのもと、さまざまなプログラムを企画しています。

## 【講演会】「印刷技術から見る書物・絵本のイラストレーション」

10月26日(土)、武蔵野美術大学名誉教授・今井良朗氏による講演会を開催しました。今井氏はポスターや絵本などのグラフィック表現を対象にした表現研究、武蔵野美術大学美術館・図書館の絵本とポスターの収集と体系化に従事された方です。本講演会は、女子短期大学図書館が所蔵していた英米の児童文学書と絵本の古書からなる「オーク・コレクション」が、大学図書館本館(18号館マクレイ記念館)に移管されたことを記念して、ギャラリー展示とあわせて企画されました。

### 【講演会概要】(今井良朗)

絵本のイラストレーションは印刷技術と不可分な関係です。歴史的にも木版や銅版、石版など版式の特徴を活かしながら発展し今日に繋がってきました。19世紀から20世紀にかけてのさまざまな印刷技法からは、表現特性の本質が見えてきます。制作プロセスがデジタル化する現在、変化したこと、なかったことをあらためて確認することは意義があるはずです。

講演会では、まず「古いものを見ていくとき、“今”という視点から見えない」と前置きをされました。またギャラリーに展示されている19世紀から20世紀前半の絵本について「過去の木口木版や石版で刷られた絵本がどれほど美しいか、見なくてはわからない。いろいろな形で印刷され紹介されているが、現物とは全く違うもの。そのことをあらためて考える機会になる」というご指摘があり、今回の展示の意義を再認識することができました。

参加者のアンケートには「今後、博物館、美術館などで印刷物に触れる機会がある際に本日学んだことを思い出しながら作品を味わえることが楽しみになりました。」「オークコレクションの本の現物の色彩を直視できる機会がいかに貴重であるかもよくわかりました。」「ギャラリーも講演をお聞きしてから観るとより深く鑑賞することができ、特に豪華挿絵本に心奪われました。」といった感想がありました。

なお、今回のギャラリー展では解説用の小冊子を作成し、それぞれの絵本の版式表記について、今井氏に監修していただきました。小冊子はジェンダー研究センターのライブラリーで閲覧いただけます。



# エンパワーメントプログラム [ジェンダーと表現]

## [インプロワークショップ] 『ザ・ベクデルテスト』

映画のジェンダーバイアスを測るテストにインスパイアされたりサ・ローランドが創ったインプロの上演形式『ザ・ベクデルテスト』。これを日本に紹介した直井玲子氏（演劇ワークショップファシリテーター・清和大学短期大学部特任准教授）によるワークショップが、7月6日、青山キャンパス 短大体育館 プレイルームにて開催されました。

参加者からは「初対面の人と即興で演劇をするのはなかなかハードルが高いことだけれど、それを感じさせない、先生の雰囲気作りが良かった。」「コミュニケーション力を高めたり、企業の研修などでも効果的と言われているインプロに、以前から興味はありましたが、私自身もこのような要素を取り入れたワークショップができるようになりたいと思いました。」といった感想がアンケートに寄せられました。



## [ワークショップ] 「パレスチナ刺繍でバッジを作る」

11月30日、青山キャンパス スクーンメーカー記念館（旧女子短期大学図書館）多目的ルームにてワークショップ「パレスチナ刺繍でバッジを作る」を開催しました。講師には、本学にて非常勤講師（担当科目：青山スタンダード科目「キリスト教美術」）をされている眞下 弥生先生をお招きしました。

ワークショップでは、パレスチナ各地の刺繍で主要なモチーフとなっている鳥、ガザ地区に伝わる文様と自分自身のメッセージを自由に組み合わせて、直径4～5cm程度のバッジに仕立てます。ガザ地区では2023年以降、イスラエルの侵攻によって多くの人が殺害されており、現在もなお犠牲者が増え続けています。また、パレスチナとイスラエル間の問題は最近になって始まったことではなく、イスラエルによるパレスチナの抑圧は何十年も前から続いています。今回のワークショップでは、はじめに講師からそういった現状や背景についての解説がありました。その後、パレスチナ刺繍の概要や基本的な作り方を説明いただき、参加者は自分の作品を制作しました。近くの人とおしゃべりしながら作る方もいれば、ひとりで集中して作る方もいて、皆それぞれのペースで制作を進めました。

あっという間の3時間で、中には時間が足りなかったという方もいました。ワークショップの最後に、作業が終わらなかった方や家でもっと作成したいという方のために、眞下先生が針や刺繍糸などの素材を参加者に提供していただきました。きっと皆さん、自宅で素敵な作品を作られたことと思います。

パレスチナをめぐる問題に関しては、目をそらさずに、知ること・語ることを止めないことが大切だとされています。今回のワークショップは申込みが開始してすぐに定員に達して、参加者のパレスチナに対する強い関心が伺えました。これからも皆でパレスチナについて思いを馳せていきたいです。





# エンパワーメントプログラム [ジェンダーと表現]

## [造形表現] 織ワークショップ 【前期・後期】

表現を通して自分自身を知ることが、ジェンダーをめぐる問題とその社会背景について考えるアプローチになることから、ジェンダー研究センターでは社会貢献事業・エンパワーメントプログラムの一つとして、「ジェンダーと表現」のテーマのもとに織と版画のワークショップを開催しています。女子短期大学の教育資産を生かした、社会人から小学生まで、幅広い年齢層が一緒に参加できるユニークなプログラムは、学校教育ではあまり経験することがない、生涯学習ならではの学びの機会といえます。

織ワークショップの 2024 年度は、初めて参加される方向けの「体験コース」と、これまでの受講者を対象とする「応用コース」の 2 通りの講座を設けました。後期の体験コースは青山アカデミアでの開講とし、より受講者の幅を広げることを目指しました。

前期：応用コース [A] 「木枠でノッティング作品を制作」	5月11日～6月8日 (全3回連続講座)
体験コース [B] 「綴織」	6月22日
体験コース [C] 「フェルトメイキング (プレフェルトによる絵柄つけ)」	7月13日
後期：応用コース [D] 「足踏み織機で織物基礎を学ぶ」	9月21日～12月7日 (全4回連続講座)
体験コース [E] 「糸を紡ぐ原理を学ぶ」	11月9日
体験コース [F] 「平織の基礎を学ぶ」	11月16日

講師：阿久津光子 氏 (元女子短期大学教授・ファイバーアーティスト)・山本真由 氏 (織作家・織工房主宰)

応用コースの前期は、ペルシャ絨毯のように毛足のあるノッティング織を木枠を用いて制作しました。後期は移転した新しい織工房で、4枚綜統の足踏み織機 (ミニルーム) を使って本格的な織を学ぶ内容でした。連続講座はスケジュール調整が難しいこともありますが、織機を使う体験はなかなかできないので、ぜひ挑戦してみたいと思います。

体験コース前期の B 「綴織」 は厚紙に、後期の F は木枠にタテ糸を張る方法で、基本的な織の構造を学びつつ、小品を作り上げます。豊富な色糸の中からヨコ糸を選び、色の効果を楽しむことができます。C と E はどちらも羊の原毛が石鹼水で縮絨 (フェルト化) する原理を用います。C 「フェルトメイキング (プレフェルトによる絵柄つけ)」 では、あらかじめ用意されたプレフェルトを自由な形に切って並べ、絵を描くように制作する方法を体験し、自分のオリジナルのプレフェルトも作りました。E は原毛をミックスしてオリジナルの糸を紡ぎ、平織、縮絨してコースター状の作品にします。体験コース C・E・F では、いずれの回も小学生が保護者と一緒に参加し、制作を楽しみました。



[織 A] 5月11日



[織 A] 5月25日



[織 C] 7月13日

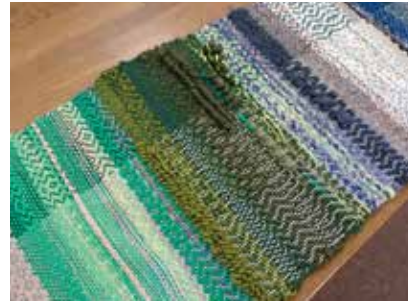




[織 D]



[織 D]



[織 D]



[織 E] 11月9日



[織 F] 11月16日



[織 F] 11月16日

## 【造形表現】版画ワークショップ 【前期・後期】

版画は絵画に比べて、素材や技法の要素が強い表現方法です。そのため絵を描くことに苦手意識を持っていても、技法を学ぶプロセスを経ることによって「表現」に対するハードルを下げることが可能といえます。また本ワークショップでは受講者が版を作成し、プロの刷り師である講師が刷りを行います。他者に制作の一部を委ねることで自らのイメージを超えた表現が生まれる意外性や、技法、刷り方、刷り色によって作品が変化する表現の多様性が、版画の魅力です。1人3点の本刷りは色遣いを変えることができるので、他の参加者の作品に触発されたり、講師のアドバイスを参考に、1点ずつ仕上げていきます。プレス機を通して紙をめくる度に歓声があがり、1日集中した疲れも吹き飛ばす瞬間です。

開講日：6月1日・7月20日・10月12日

講師：白井四子男氏（白井版画工房主宰）

技法：各回とも銅版画の3種類の技法の内、一つを選んで制作します。

①エッチング（ハードグラウンドエッチング、ソフトグラウンドエッチング）\* ②ドライポイント ③メゾチント

\* 繊細な線による表現が可能なハード、鉛筆のタッチや草・布のテクスチャをいかすことができるソフト、その併用などイメージに合わせて選択します。



ジェンダー研究センターギャラリー 2024 年度報告

ジェンダー研究センターは、ジェンダーをテーマとする企画展示、センターの研究・教育・社会貢献事業の活動報告など、学内外に向けた情報発信の場として、ギャラリーを運営しています。また、前身の「短大ギャラリー」が行ってきた学院所蔵美術作品の展示、全設置学校全が参加する作品発表展を継続し、園児・児童・生徒・学生および社会人の教養教育の場としての役割も担っています。

2024 年度 ジェンダー研究センターギャラリー展示記録

No.	展覧会名	会期
1	ジェンダー関連科目紹介展	4/1 (月) - 4/17 (水)
2	共創の場：ジェンダー問題とアジアのアート・コレクティブ	4/20 (土) - 5/11 (土)
3	ジェンダー研究センター活動報告展	5/15 (水) - 5/31 (金)
4	キリスト教美術展 at aoyama	6/3 (月) - 6/15 (土)
5	おーる あおやま あーと てん '24 *	6/19 (水) - 7/3 (水)
6	ジェンダーと表現 織・版画ワークショップ 作品展	7/5 (金) - 7/27 (土)
7	ジェンダー関連科目紹介展	9/20 (金) - 10/2 (水)
8	《青山学院行進曲》作曲の背景をめぐって — ヨーゼフ・ラスカ、日本における女子専門教育と音楽活動	10/4 (金) - 10/19 (土)
9	図書館所蔵貴重図書『オーク・コレクション』展 — 印刷技術から見る絵本のあけぼの—	10/22 (火) - 11/13 (水)
10	青山学院創立記念所蔵作品展	11/15 (金) - 11/29 (金)
11	Art クリスマス AOYAMA in Gallery *	12/3 (火) - 12/11 (水)
12	ジェンダーを知るためのブックレビュー展	12/13 (金) - 1/25 (土)

(\*は、ジェンダー研究センターの企画による以外のもの)

No.4 キリスト教美術展 at aoyama

キリスト教美術協会は、キリスト教の教派や美術団体の会派、その所属の有無を問わず、キリスト教の精神を基にして集まった美術家たちの団体で、青山学院は同協会の創設者・田中忠雄の油彩画、設立初期の中心メンバーであった渡辺禎雄の型染版画など、同協会にゆかりのある作家の作品を多く所蔵している。同協会の協力、宗教センターの後援により、本展を企画。学生・生徒・児童・園児が、現代を生きる美術家たちによる作品にふれる貴重な機会となった。

No.8 《青山学院行進曲》作曲の背景をめぐって — ヨーゼフ・ラスカ、日本における女子専門教育と音楽活動

ヨーゼフ・ラスカ (1886-1964) は、1923-1935 年、関西に滞在し、宝塚音楽歌劇学校、神戸女学院で音楽教育にあたり、また宝塚交響楽団を創設して指揮者を務めた音楽家である。ラスカが 1935 年に作曲した《青山学院行進曲》の自筆譜が、根岸一美氏 (大阪大学名誉教授) によって発見され、2024 年 6 月に青山学院創立 150 周年記念事業として青山学院管弦楽団による初演が実現。

本展は根岸氏の著書をもとに、ラスカの教育活動、作品を紹介するパネル展示。10 月 19 日のレクチャーコンサート関連企画、150 周年記念事業として開催した。

No.6 ジェンダーと表現 織・版画ワークショップ作品展

2024 年度のワークショップで制作された、小学生から社会人まで、また初心者から経験者まで、多様な参加者による、[織] [版画] の作品を展示。

オンラインギャラリー▶



No.9 図書館所蔵貴重図書『オーク・コレクション』展 — 印刷技術から見る絵本のあけぼの—

青山学院女子短期大学図書館が所蔵していた貴重図書、英米の児童文学書と絵本の古書からなる「オーク・コレクション」が、大学図書館本館 (18 号館マクレイ記念館) に移管されたことを記念して、2023 年度に引き続き展示と講演会を開催。

19 世紀前半から 20 世紀半ばまで、産業の発展にともなう社会の変化とともに、印刷技術も日進月歩の勢いで進化し、子どもの本にも革新的な変化をもたらした。往時の印刷の美しさを味わいながら、印刷術の変化が絵本の表現にどのように影響していったかを辿る展示。

No.12 「ブックレビュー展」

ジェンダーに関心のある教員、学生たちがおすすめの本を紹介する。過去の展示パネルのファイルはセンターのライブラリーで閲覧可。





No.4 キリスト教美術展 at aoyama



No.6 ジェンダーと表現 織・版画ワークショップ 作品展



No.8 ヨーゼフ・ラスカ展



No.8 ヨーゼフ・ラスカ展



No.9 オーク・コレクション展



No.9 オーク・コレクション展



No.10 青山学院創立記念所蔵作品展



No.12 ジェンダーを知るためのブックレビュー展

## 展覧会「共創の場：ジェンダー問題とアジアのアート・コレクティブ」

日本、韓国、香港、マレーシア、イギリスなど、多様な文化圏より、ジェンダーの問題に取り組み、コミュニティの構築を目指す6つのアート・コレクティブ（アート・グループ）の作品・創作活動を紹介する展覧会を開催し、関連イベントも数多く行われました。展覧会には16日間で500名を超える来場者があり、アート系メディアに取り上げられるなど、学内外の関心を集めました。

本展は、青山学院のコミュニティがSDGs目標の一つである「ジェンダー平等」をアートから考えることを目指して、AOYAMA VISIONを実現する取り組みとして企画し、青山学院大学経済研究所の助成を受けました。報告書をWebサイトに掲載していますので、そちらもご覧ください。

会期：2024年4月20日（土）～5月11日（土）

会場：青山学院大学 ジェンダー研究センターギャラリー

キュレーター：吳 君儀 Krystie NG

コーディネーター：チェルシー・シーダー Chelsea SCHIEDER（青山学院大学経済学部教授）

平河 伴菜 Hanna HIRAKAWA

グラフィックデザイン：邵 琪 Shao QI



### 参加コレクティブ：

- イースト・アジア・エコトピア  
East Asia Ecotopia（釜山/ソウル）
- Itazura NUMAN（東京）
- キーエップ村クラフトハウス  
Craft House of Keiyep Village  
（マレーシア・サバ州）
- リブ新宿センター資料保存会（東京）
- クィア・リーズ・ライブラリー  
Queer Reads Library（香港）
- VaChina（ロンドン / 中国）

### 関連イベント：

- 4月20日（土） 開会式：ガイドツアー
- 4月22日（月） フェミニズムを实践する：  
VaChina×エトセトラブックスの対談
- 4月23日（火） 木版画ワークショップ：  
イースト・アジア・エコトピア
- 4月26日（金） 上映会『ミモザ・ウエイズ』
- 4月27日（土） CASS 縫いものワークショップ：  
Itazura NUMAN  
上映会『KITA』
- 5月11日（土） トーク：リブ新宿センター資料保存会  
× チェルシー・シーダー







キーエップ村クラフトハウス



VaChina



イースト・アジア・エコトピア



Itazura NUMAN



クエア・リーズ・ライブラリー



リブ新宿センター資料保存会



VaChina x エトセトラブックスの対談



CASS 縫いものワークショップ

# コミュニティスペース・もやもやカフェ

ジェンダーやセクシュアリティに関心を持つ学生および教職員がともに学び、語り合うことができる居場所として、「コミュニティスペース」などを運営しています。

## コミュニティスペース

ジェンダー、セクシュアリティ、フェミニズムなどについて学生同士、またセンターのスタッフと自由におしゃべりする場として、月2回、開催しています。

全ての人安心して参加できるよう、「話したくないことは話さない」「相手を否定しない」などのグラドルールを定めています。



開催スケジュールはこちら



June							コミュニティスペース 開催日時
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	コミュニティスペース 開催日時
							5/14 (金) 12:30-14:00
							6/26 (金) 12:30-14:00
							7/14 (金) 12:30-14:00
							8/11 (金) 12:30-14:00
							8/25 (金) 12:30-14:00
							9/8 (金) 12:30-14:00
							9/22 (金) 12:30-14:00
							10/6 (金) 12:30-14:00
							10/20 (金) 12:30-14:00
							11/3 (金) 12:30-14:00
							11/17 (金) 12:30-14:00
							11/30 (金) 12:30-14:00
							12/14 (金) 12:30-14:00
							12/28 (金) 12:30-14:00

## 学生企画「もやもやカフェ」

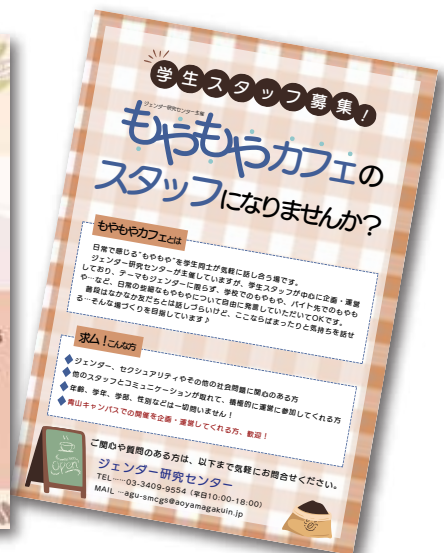
もやもやカフェとは有志の学生たちが主体となって企画する、学校生活でのもやもや、バイトでのもやもや…など、日頃感じている“もやもや”を気軽に話し合う場です。

2021年度から継続している企画であり、卒業などによるメンバーの入れ替わりがありつつも、2024年度は青山キャンパスと相模原キャンパスで1度ずつ開催しました。イベント当日は、少人数でじっくりワイワイと語り合える楽しい時間となりました。

本企画は、年間を通して学生スタッフを募集していますので、関心がある方はぜひセンター宛てにご連絡ください。

2024年7月17日 (水)  
15:00~17:00  
@青山キャンパス

2024年12月19日 (木)  
15:05~16:35  
@相模原キャンパス



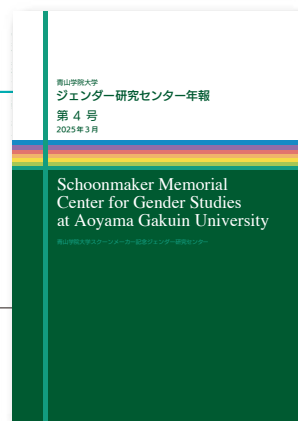


年報第 4 号 (2024) 発行

年報第 4 号 (2024) が、2025 年 3 月 15 日に発行されました。ウェブサイト掲載の PDF 版での発行としています。第 4 号の内容は以下のとおりです。



年報第 4 号



ジェンダー研究センター 2024 年度活動記録

ジェンダー研究センター 2024 年度研究プロジェクト

ジェンダー研究センター指定型研究プロジェクト

「青山学院大学におけるジェンダー教育カリキュラムの構築」(2022/4/1-2024/3/31)

青山学院大学におけるよりよいジェンダー教育に向けて：

研究プロジェクトから見えた課題と展望 ..... 菅野 美佐子

寄稿エッセイ

スクーンメーカーが蒔いた「宣教の種」150 年後の実り

ーグランディ郡歴史協会博物館ドーラ・E・スクーンメーカー常設展示に至る経緯ー

..... 河見 誠

性的同意ハンドブック「探検しよう！私とあなたの気持ちを守るには」

4 月 1 日 (火) に実施された入学式にて、約 5000 人の新入生を対象に、性的同意ハンドブック「探検しよう！私とあなたの気持ちを守るには」を配布しました。本ハンドブックは、本学学生に性的同意の大切さや性暴力の深刻さ、第三者介入の方法、相談窓口などについての情報を提供するものです。

ハンドブックの作成は、2022 年度の夏頃から始まりました。2023 年度の新入生への配布後、様々な方からより良い内容にするためのアドバイスをいただき、次年度の入学式での配布に向けて内容の見直しを行いました。より多くの学生が分かりやすく読めるようにイラストの位置を修正したり、法改正や最新の裁判結果を踏まえて情報を更新したりし、また表紙のイラストも一新して、2024 年度版を作成しました。今回、そこから更に内容の修正を加えて、2025 年度版を新たに作り上げました。今後も定期的にブラッシュアップし、学生にとってより充実した内容となるよう努めてまいります。

ハンドブックは、センター内などで入手できます。また、PDF 版とテキストデータ (.txt) 版をセンター Web ページにて公開していますので、ぜひご覧ください。学生ポータルからも PDF 版にアクセスできます。

CONTENTS

- 探検家になるう
- 性の島の MAP
- 性的同意」本編
- バウンダリー
- 性的同意
- 性暴力
- 第三者介入
- 制作者紹介



性的同意ハンドブック





# スペース移転・ライブラリー運営

2024年の夏に、ジェンダー研究センターは青山キャンパス短大北校舎1階からスーンメーカー記念館（旧女子短期大学図書館）1階へと移転しました。

移転に伴い、建物の入り口にスロープを設置し、また、2階との間に段差解消機を取り付け、より多くの方にアクセスしやすい環境を整えました。また、センター入り口の近くにオストメイト対応・介助用ベッドを備えた広いバリアフリースペースを新設しました。センター内にはオールジェンダートイレの個室も整備しました。

ほかにも、今回の移転でライブラリーが広くなり、よりゆったりとした空間になりました。また、短大図書館の除籍本を迎え、蔵書がより充実しました。

今後もより充実したセンターになるよう、整備を進めてまいります。ぜひ気軽に遊びに来てください！



## ライブラリー

ジェンダーやセクシュアリティなどに関する図書、雑誌、コミックスなどを1000冊以上所蔵しており、誰でもライブラリーでの閲覧ができるほか、学生と教職員には貸出も行っています。図書リストはセンターのWebサイトに掲載しており、順次、更新しています。

ギャラリーで毎年度開催している「ジェンダーを知るためのブックレビュー展」のパネルもファイルにアーカイブしていますので、ジェンダーに関心がある教員、学生らによるレビューもご覧いただけます。

また、性に関する情報が記載されたハンドブックやリーフレット、さまざまな学外団体のパンフレット、ZINEなども数多く揃えており、一部を除いてご自由にお持ちいただけます。最新のイベント情報も掲示していますので、ぜひチェックしてみてください。



図書リストはこちら

## 東京レインボープライド2024 渋谷区×区内4大学 協働ブース出展

4月19日（金）から21日（日）にかけて代々木公園にて開催された”性”と”生”の多様性を祝福するイベント「東京レインボープライド2024」に、渋谷区の区内4大学（実践女子大学、聖心女子大学グローバル共生研究所、津田塾大学、青山学院大学ジェンダー研究センター）で協働して、ブースを出展しました。

ブースにはメッセージボードを設置し、LGBTQフレンドリーなキャンパスの実現のためのアイデアを来場者に書いてもらいます。寄せられた声を渋谷区内の各学校などに届け、性的マイノリティの学生も安心して学生生活を送れるセーフスペース実現のために必要な具体的なアクションにつなげることを狙いとします。

当日はたくさんの参加者にブースに立ち寄っていただき、メッセージボードがすべて埋まってしまうほどの付箋紙が集まりました。例えば「相談できる人や場所を学内に増やすために必要なこと」コーナーは「どんな意見、個性も否定しない」、「男とか女でくくるのではなく、その人自身を見ること」、「教職員に対して定期的にトレーニングをする」、「学生の活動を知ってもらう」など多様なメッセージであふれかえり、また「青学生のLGBTQ+の学生を応援しています」との本学へのエールも送っていただきました。さらに「青学生より Happy Pride♡」という在学生からのメッセージもありました。

ほかにも、ブースには啓発用パネル、各大学のパンフレットやイベントチラシなども掲示しました。また、今回は2023年10月のイスラエルによるガザ侵攻後の初の東京レインボープライドであったため、センターはブース内に「全ての人の安全とプライドのための宣言」と題したステートメントを掲げさせてもらいました。ステートメントでは「あらゆる形態の暴力、弾圧と虐殺に反対するとともに、世に生きる全ての人に、性別、性的指向、性自認、人種、肌の色、民族、言語、身体的特徴、思想・信条、政治的意見、所得、生まれ、障がいの有無、年齢、その他一切の差異にかかわらず、等しく安全とプライドがもたらされることを強く望む」ことを表明し、センターのスタンスを明確にしました。

また、当日は3名の青学生にボランティアスタッフとして活躍してもらいました。スタッフに後日話を伺うと、他大学のスタッフや参加者と交流ができ、非常に有意義な時間を過ごせたということでした。また、渋谷区の広報誌「しぶや区ニュース」2024年6月号に『多様な性を祝福する「東京レインボープライド」』という特集を組んでいただき、本学からはボランティアスタッフ1名がインタビュー記事に出演しました。





## 渋谷男女平等・ダイバーシティセンター<アイリス>出張開催 読書会「にじいろ読書カフェ」

「にじいろ読書カフェ」は渋谷男女平等・ダイバーシティセンター<アイリス>(当時。現:渋谷インクルーシブシティセンター<アイリス>)の取り組みの一つであり、性の多様性がテーマの書籍をみんなで読み、感想を共有しあう場です。

東京レインボープライド 2024 にて掲げた「当事者学生のつながる場の提供」や「セーフスペースづくりの促進」という目標を達成するための活動の一環として、6月22日にジェンダー研究センターにて、<アイリス>の方々に出張開催をしていただきました。

読書カフェにて取り上げる本については、センター内で協議した結果、李 琴峰『生を祝う』に決定しました。同作は、子どもを産むためには、その子からの同意が必要となる世界を舞台にした衝撃作です。なお、開催にあたって、イソップ・ジャパン株式会社による書籍提供の協力をいただき、事前参加申込みをしてくれた方には書籍をプレゼントしました。

当日はファシリテーターのティーマさんを中心に車座となり、多様な感想や意見を交換し合いました。ティーマさんによって案内されたグラウンドルールには「言いたいことを言ってい」、「嘘をついてもいい」などのユニークでありながら非常に大切なルールも含まれており、より一層セーフな場となったように感じました。



**にじいろ読書カフェ**

ジェンダーやセクシュアリティに関する書籍の感想を共有しあう、おしゃべりの時間です。ファシリテーター:ティーマさん(「読書サロン」主宰)  
対 象: LGBTQ&アライの学生さん。当日、参加を希望していただく機会がございます。  
定員: 各20名  
参加費: 無料 (要事前申込・当日参加不可)  
**事前申込後、参加の書籍をプレゼントします!!**

6月22日(土) 10:00-12:00 青山学院大学(青山キャンパス)  
相大研究棟1階 ジェンダーセンター内 会議室  
『生を祝う』李 琴峰(リコトミ) / 朝日新聞出版

6月22日(土) 14:00-16:00 津田塾大学(千駄ヶ谷キャンパス)  
アリス館 3階 SA313教室  
『響は永遠にそいつらより強い』津村 記久子 / 集英館

6月29日(土) 10:00-12:00 実践女子大学(渋谷キャンパス)  
501教室  
『星月夜』李 琴峰(リコトミ) / 集英社

6月29日(土) 14:00-16:00 聖心女子大学  
聖心グローバルプラザ(4号館/1階 BE\*Hive)  
『息子のボーイフレンド』教育 理香子 / U-NEXT

## 「渋谷ジェンダー平等推進アワード2024」受賞

ジェンダー研究センターは、聖心女子大学グローバル共生研究所と共同で行っている「大学間連携を通じたジェンダー平等・性の多様性理解促進」の取り組みについて応募し、「渋谷ジェンダー平等推進アワード2024」を受賞しました。12月13日(金)には、渋谷ジェンダー映画祭の会場にて表彰式が行われ、当センターからはセンター長である申恵丰教授が出席しました。



表彰式

### ▼「渋谷ジェンダー平等推進アワード」とは

渋谷区がジェンダーやセクシュアリティにかかわらず、誰もがいきいきと暮らせる社会の実現を目的として実施する取り組みの一つであり、「ジェンダーやセクシュアリティにとらわれず、誰もが過ごしやすい社会に寄与する取組み」を評価し、表彰するものです。



アワード盾

## 特記事項

- 8月 スペース移転 (p. 26掲載)
- 12月 渋谷ジェンダー平等推進アワード2024 受賞 (p. 28掲載)